

## ドナー移植コーディネーターの役割に関する調査 —実践で必要となる教育内容の検討にむけて—

奈良岡恵子<sup>1)</sup> 川崎くみ子<sup>2)</sup>

1) 青森県立保健大学、2) 弘前大学大学院保健学研究科

Key Words : ①ドナー移植コーディネーター②役割  
③教育

### I. はじめに (または「緒言」等)

現在、臓器提供候補者が現れた際の摘出側と移植側の橋渡し役であるドナー移植コーディネーター (以下、ドナーC○とする) は、日本臓器移植ネットワーク (以下、NWとする) 所属の約20人と各都道府県に業務委嘱された約50人が活動している。本研究では、実際に脳死下臓器提供に関与した医師と看護師を対象として調査することで、ドナーC○の臓器提供発生時業務の実態が明らかになり、ドナーC○が臓器提供発生業務遂行のために必要な教育の質的向上に貢献できると考えた。

### II. 目的

ドナーC○が実践場面で必要とされる役割を明らかにすることを目的とする。

### III. 研究方法 (または「研究の経過」等)

#### 1. 調査対象と調査期間

対象は、平成9年10月～平成19年8月に脳死下臓器提供を経験した施設 (NWホームページ上で公開されている55例中、施設名が公表されている31施設の医師5名および看護師5名とし、選定は施設に一任した。平成19年12

月～平成20年1月に質問紙による調査を実施した。

#### 2. 調査内容およびデータ収集

質問紙の構成は、①院内体制について (心停止下臓器提供経験の有無、臓器提供シミュレーション実施の有無、臓器提供時の実施経過について など)、②ドナーC○について (臓器提供発生時業務が円滑に行われていたか、対応で良かったこと困ったこと など) とした。質問紙は無記名とし回答は個別返送とした。

#### 3. 倫理的配慮

本研究は青森県立保健大学倫理委員会の承認を得て実施した。

### IV. 結果 (または「成果」等)

調査協力の承諾を得た11施設へ110部の質問紙を送付し、45名 (回収率40.9%) より回答を得た。心停止下臓器提供は26名 (56.8%) が経験し、脳死下臓器提供の実施経過について32名 (71.7%) が「比較的スムーズに実施された」と回答した。その際のドナーC○業務で最も円滑に行われたと感じる業務は、23名 (51.1%) が「家族に対する臓器提供の説明と意思確認・承諾書作成」と回答し、最も円滑に行われていなかったと感じる業務について、回答のあった26名中最も多かったのが「ドナー候補者の医学的および社会的適応の確認」であった。

### V. 考察

心停止下臓器提供の経験から脳死下臓器提供実施は院内体制整備がされ円滑に実施された、という回答に繋がったと示唆される。ちなみに、1997年に臓器移植法が制定された後、脳死下臓器提供は1999年2月に高知赤十字病院で実施され、2008年12月現在まで全国で76名の方より脳死下臓器提供が行われた。76症例中、東北では青森県では、八戸市立市民病院において2002年と2007年に行われている。このような現状の中、ドナーC○業務で、「ドナー候補者の医学的および社会的適応の確認」が円滑でなかったと評価されるのは、臓器提供が少ない現状で経験を積むのが困難な現状を示した結果である。質の高い臓器の提供により患者を救うことが移植医療の根幹ならば、ドナー適応確認やドナー管理は根幹を支える役割であり、そのための教育は内容・方法ともに検討が必要である。また、「複数のドナーC○が情報を個別に流し現場が混乱した」という意見があった。このことから、ドナーC○は、臓器提供という緊急時に病院内部のコミュニケーション・ネットワークに入り込むことから、組織における情報伝達を熟知した上で、連絡調整するという役割を認識する必要があると考える。

### VI. 発表 (学会発表)

第4回日本移植・再生医療看護学会 (2008年10月4日)